

ビデオ 通信

2021年
6月7日(月)
No.4477

月・木曜日発行
月額：¥11,000(税込：¥11,880)
発行：飯澤剛 編集：齋藤浩一

ユニ通信社

〒106-0047
東京都港区南麻布 5-2-37
DEPECHE MODE 4F
TEL：03-5422-7515
FAX：03-5422-7516
E-mail：vt@uni-press.net

パナソニック映像

「コロナ対策映像ソリューション」を推進 映像ソリューションで顧客の情報発信における課題解決をサポート



Webサイトでは「コロナ対策映像ソリューション」の訴求動画を公開中
「オンデマンド配信」 ④バーチャルショールーム」(Matterport) ⑤「バーチャルプラットフォーム GroonPlus」 ⑥非接触でコミュニケーション「遠隔受付システム」——で構成されており、同社が1年間にわたって展開してきた様々な取り組みをベースに、様々な企業の情報発信における課題解決を“映像ソリューション”によってサポートするもの。従来の顧客に対してはメールマガジンを配信、新規顧客には同社Webサイト上で約1分の動画を公開することで、同ソリューションを訴求している。同社は各種映像の企画制作、ポストプロダクションをはじめ映像に関する幅広い事業を展開しているが、今回の「コロナ対策映像ソリューション」により、増加しているオンライン関連業務をさらに拡張させていくという。

「お客様に役立つこと」を改めて整理

「コロナ対策映像ソリューション」を提供する背景について、代表取締役社長の宮城邦彦氏(写真→)は「2020年はコロナ禍で非常に厳しい1年となりました。国内GDPも落ち込み、中でもライブエンターテインメント系は約8割減という厳しい状況でした。映像制作業界の現状をみても、映像メディア市場は1割減。当社として特に厳しかったのは事業の宣伝費が大幅に削減され、6割の企業が宣伝広告費



コロナ対策
映像ソリューション

ソリューション一覧

お客様との接点の場を
創出したい…

① まるっとおまかせ配信業務

他とは違った特別感の
ある配信をしたい…

② バーチャル空間からプレミアム配信

社内コミュニケーションが
不足がち…

③ 効率よく情報共有オンデマンド配信

ショールーム運営に
お悩み…

④ バーチャルショールーム(Matterport)

オンライン展示会を
開催したい…

⑤ バーチャルプラットフォーム(GrooonPlus)

効率的な業務改善を
行いたい…

⑥ 非接触でコミュニケーション遠隔受付ソリューション

Paranasonic Visual C

をカットし、そのうちの8割は半減以下になってしまった。そうした現状の中で、当社としてどこに注力していくべきかを改めて考えました。ニューノーマルの時代、若者から高齢者まで全世代において動画配信サービスの利用が増えており、デジタルエンタメ市場が急激に伸び始めています。with コロナ・after コロナの時代において、映像制作業界として最新テクノロジーを掘り起こし、インターネットの活用や、当社のような制作会社では制作のリモート化を軸に動いていく必要があります。私たちが厳しいと同時に、企業も厳しい状況です。企業の情報発信の課題を解決することが、最終的に当社のビジネスにつながると考え、今回のプロジェクトではライブ映像のニーズを捉え直し、いま一度当社の強みとして提案できることを可視化し、特定領域に特化することに注力し直し、「お客様に役立つこと」を改めて整理し、提案することとしました」と説明する。

おまかせ配信やプレミアム配信、バーチャル展示会、遠隔受付など6つの切り口

「コロナ対策映像ソリューション」は、同社が1年間にわたって展開してきた様々な取り組みをベースとし、プロデューサー陣をはじめ同社の持つリソースを集約した全社的なプロジェクトとなっている。

プロジェクトリーダーであるマーケティング・プロデュースグループ 大阪2チーム チームリーダーの林慎二郎氏(写真→)は「テレワークやリモートが1年間も続くとは予想できませんでした。こういう時代だからこそ、当社はお客様とつながっていなければならない。もっとお客様と接することが必要だと実感しています。「コロナ対策映像ソリューション」では「お客様のお困りごと」という観点から、当社として「映像」を使って何ができるかを考え、6つの切り口によるソリューションを提案しています」とする。



「コロナ対策映像ソリューション」で提供するサービスは次の通り。

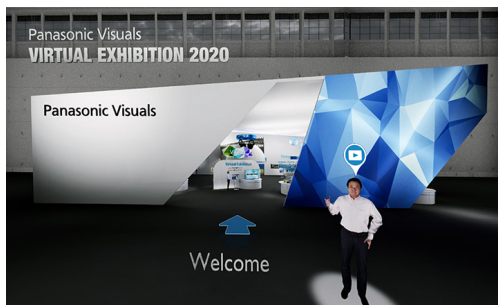
▽「まるっとおまかせ配信業務」：同社では中継配信業務として衛星やインターネットを使って提供してきたが、2020年には各種テレビ会議のプラットフォームによる配信を提案し、2020年度には約150件の配信業務を行った。また、配信の技術サポートだけでなくクライアントのオペレーション人材の育成、機材選定、安価な配信に対する提案も行い、1年間を通して東京・大阪を含め様々な配信業務を行っているが、配信を未経験の顧客に対してはゼロから配信終了までワンストップ（＝まるっとおまかせ）で提案している。医療学会による10拠点接続配信や企業の株主総会、大学の入卒業式ライブ配信などの納入事例を有しており、そのノウハウを提供する。



▽バーチャル空間から「プレミアム配信」：コロナ禍により、企業ではこの1年間、各種テレビ会議プラットフォームによる配信を展開してきたが、「もうワンランク上を目指したい」というニーズの高まりに対して、これまでとは違った配信イベント「プレミアム配信」を提案している。グリーンバックで出演者と背景を合成し、VR空間を活用することでプレゼンテーション領域が広がるほか、各拠点をつなぐことでクオリティーの高い配信が実現する。配信場所は柔軟に対応が可能。同社スタッフが顧客の会議室などに出向いてセッティングするほか、東京・大阪のパナソニック映像でも収録・配信できる。

▽効率良く情報共有「オンデマンド配信」：会社の方向性を示し、社員の一体感や士気向上を図るため社員へのメッセージを発信したり、営業・商品企画・広報担当者から営業担当への新商品のレクチャーなど、情報共有における映像活用メリットは大きい。配信の内容・目的に合わせた効果的なコンテンツ制作から配信、さらにオンデマンドとしても活用できるトータルな提案を行う。従業員向け教育ビデオ、大学の学生向けオリエンテーションビデオ、団体向け資格取得レクチャービデオなどの納入実績がある。

▽自宅から訪問「バーチャルショールーム」(Matterport)：360度3Dスキャンカメラで撮影した写真データがクラウドにアップされると自動的に3Dバーチャル空間ができあがるシステム「Matterport」を活用した「バーチャルショールーム」を提案。また、SDKを使用することでユーザーの位置情報や行動分析ができたり、ユーザーの移動に合わせてガイダンス音声を流す自動ガイドツアー等もカスタマイズ可能。継続的にバーチャルプラットフォームを活用する提案を進めている。



GroonPlus を活用して開催された昨年の「Panasonic Visual VIRTUAL EXHIBITION 2020」

▽バーチャルプラットフォーム (GroonPlus)：パナソニックグループのパナソニックシステムデザイン(株)が持つプラットフォーム「GroonPlus」を活用し、写真やCGの360度パノラマ画像をベースに3Dやパネルなどの静止画、動画を組み合わせてリアル店舗やショールーム、展示会をバーチャル化する。静止画写真をベースにしたMatterportに対し、GroonPlusはCG空間をプラットフォームとして展示会場

を作れるのが特徴。2020年10月には同プラットフォームを活用して、同社のバーチャル展示会「Panasonic Visuals VIRTUAL EXHIBITION 2020」を開催した。

▽非接触でコミュニケーション「遠隔受付ソリューション」：受付業務の省人化、コロナ対策として「非接触でコミュニケーションを取りたい」、また「メッセージ性の高いビジュアル告知をしたい」というニーズに対し、設置自由度の高いプロジェクターを活用したプロジェクションマッピング「スペースプレーヤー」と、パナソニックシステムデザイン社の遠隔受付システムをパッケージ化した提案。ディスプレイ上のアバターがリアルタイムに来客とのコミュニケーションをとり、QRコードを発行することで、非接触ながらホスピタリティが高い、ホテルや企業エントランスの受付業務が可能となる。

バーチャル展示会は「プレミアム型」やリアルとの「ハイブリッド型」に

バーチャルショールームやバーチャル展示会は今後、リアルとバーチャルを融合した「ハイブリッド型」と、よりインパクトのある「プレミアム型」が求められるという。

宮城氏は「2020年度はコロナ迷走期で、まずは密を避けるためにリアル展示会を中止するかバーチャル展示会にするしかありませんでした。2年目に入った2021年度は少し慣れてきたことで、お客様は単なるバーチャル展示会というだけでは満足できなくなってきました。お客様のニーズは、感染対策を徹底した上で行うリアル展示会との「ハイブリッド型展示会」。その一方、来場者の心に深く残るようなより「プレミアム型バーチャル展示会」に変わってきています。「コロナ対策映像ソリューション」では、それほど予算をかけずにもう少しインパクトを残すための“ちょっとしたプレミアム化”のためのアイデアをいくつか盛り込んでいます」と語る。

一方、リアルとバーチャルの「ハイブリッド型」について、今年新たに同社取締役役に就任した竹内誠一氏（写真→）は「タイムシフト的にいつでもアクセスできること。また、離れていてもリモートで参加できることはバーチャルの大きなメリットです。今後、コロナが落ち着いても、比率は変化するかも知れないものの、“バーチャル〇〇”は絶対に残ると考えています。リアルの良い点にプラスαとしてバーチャルの良さを加えた「ハイブリッド型」の提案を積極的に行っていきたい」。



林氏は「これだけコロナ禍が長く続いているので、これまであまり必要と感じていなかったお客様も、年間を通して足を運び続けた結果、バーチャルプラットフォームなどに予算を取り、リアルとの「ハイブリッド型」を検討されるようになってきています」と期待を寄せている。

パナソニック映像は、各種映像の企画制作、ポストプロダクション、BD/DVD オーサリング・プレスを含む映像ソフトのトータルプロデュースなど、映像に関する幅広い事業を展開しているが、昨年から続くコロナ禍の影響もあり、4～5割がオンライン関連の業務となっているという。

宮城氏は「「コロナ対策映像ソリューション」の販売によって、売上高の半分を補えるくらいの勢いで拡張させていきたい」と話している。

◇パナソニック映像 <https://panasonic.co.jp/cns/pvi/>

本社：大阪市都島区東野田町 2-4-20 三井住友銀行京阪京橋ビル 8階 TEL06-6882-4478

品川オフィス：東京都品川区東品川 1-3-12 TEL03-3450-7883